

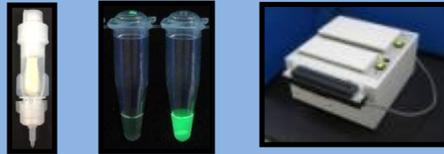
フィリピン国の開発ニーズ

- フィリピンは、結核高負担22か国、多剤耐性高負担国27カ国のひとつ。
- 一次スクリーニングの感度アップ。検査結果に基づく多剤耐性結核対策が必要

普及促進事業の内容

- RITMへの日本の結核診断技術(TB-LAMP, Genoscholar)導入。新アルゴリズム評価のためのパイロットスタディー実施
- RITM周辺の複数RHUへのTB-LAMP導入。新アルゴリズムの有効性実証スタディー実施
- 成果の公表。新アルゴリズムの公定法への提案。

提案企業の技術・製品



<TB-LAMP(栄研化学)>
簡易迅速な遺伝子検査法。スミア顕微鏡検査しか行えないような環境下でも実施が可能

<Genoscholar(Nipro)>
多数の薬剤耐性関連遺伝子を検出する技術。対象薬剤はリファンピシン、イソニアジド、ピラジナミド等主要抗結核薬に対応。非結核性抗酸菌も検出可能

事業のポイント
既存結核検査アルゴリズムに日本の結核診断技術を組み込み、より迅速で精度の高い結核・多剤耐性結核対策を行う

フィリピン国側に期待される成果

- より高感度な一次スクリーニングにより、結核患者の発見率が向上。現在スミア試験のアドオンとして使用しているXpert用コストが低減。
- 検査結果に基づく適切な薬剤選択により、効率的な多剤耐性結核対策が実施可能となる。

日本企業側に期待される成果

現状

- 日本国内中心で普及されており、途上国での普及は限定的。先行しているXpert法、LPA法(Hain社)の普及に遅れをとっている。

今後

- 日本の技術パッケージがフィリピンの結核検査の公定法として広く使用され、同国の結核対策に貢献する。